

# 東京都立図書館協議会 第25期第3回定例会議事録

平成23年10月5日（水）

東京都多摩教育センター3階 301・302研修室

午前10時00分～午後0時15分

## 出席者名簿

委員

(欠席者)

池山世津子委員	浦部万理子委員	糸賀雅児委員
齊藤一誠委員	鈴木秀樹委員	岡本真委員
田中久徳委員	千野信浩委員	野末俊比古委員
中島元彦委員	長島麻子委員	
宮林徹委員		

都立図書館幹部職員

管理部長 サービス部長  
総務課長 企画経営課長 多摩図書館長  
資料管理課長 情報サービス課長

教育庁

社会教育施設係主任

事務局

企画経営係長 企画経営担当係長

## 配布資料

東京都立図書館協議会第25期第3回定例会次第

座席表

東京都立多摩図書館の事業概要について

〈参考資料〉

都立多摩図書館の施設整備について（平成23年1月27日教育庁報道発表資料抜粋）

写真で見る都立多摩図書館の事業

東京都立多摩図書館〈利用案内〉

マガジンバンク・パンフレット

東京都子供読書フォーラム2011チラシ

「江戸・東京デジタルミュージアム」チラシ

東京都立図書館協議会第25期第3回定例会

平成23年10月5日（水）

午前10時00分開会

**【中島議長】** おはようございます。本日はお忙しいところ、また雨の中を、立川までお集まりいただきましてまことにありがとうございます。ただいまから、第25期第3回東京都立図書館協議会を開会いたしたいと存じます。

本日は、前回の協議会で事務局からお話がありましたように、ここ多摩図書館の視察ということでございます。テーマの協議につきましては次回からということでございますので、よろしく願いをいたします。

それでは、事務局から幹部職員の人事異動について報告があるということでございますので、ご紹介をお願いしたいと思います。また、配付資料の確認、情報公開等につきましてもあわせて説明をお願いします。

**【倉富企画経営課長】** おはようございます。都立中央図書館企画経営課長の倉富でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

まず初めに、当館の幹部職員の異動につきましてご報告させていただきます。

平成23年8月1日付幹部人事異動で、管理部長に坂が就任をいたしました。

**【坂管理部長】** 坂崇司と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

**【倉富企画経営課長】** また、同日付で、教育庁の次長の庄司が館長事務取り扱いに就任してございます。本日、公務のため欠席させていただいております。次回ごあいさつさせていただきますのでよろしくお願いいたします。

引き続きまして欠席委員でございますが、本日は業務の都合で糸賀委員、岡本委員、野末委員が欠席されていますので、よろしくお願いいたします。また、ご出席いただいている池山委員でございますが、本日、ご公務の関係がございましたので、視察の後、お帰りになられるということでございますので、よろしくお願いいたします。

それでは、配付資料の確認をさせていただきます。資料1から3、それから参考資料1、2とつけさせていただいております。その他参考資料として利用案内等をつけさせていただいておりますので、ご確認いただければと思います。

次に、この会の情報公開についてご説明申し上げます。当協議会におきましては、会議は原則として公開としております。会議の内容につきましては、委員のお名前を付して議

事録を作成し、都立図書館のホームページ等により公開いたします。

本日の傍聴者は5名でございます。よろしくお願いいたしますと思います。

以上でございます。

【中島議長】 それでは、視察の前に事前説明があるということでございますので、説明をお願いします。

【倉富企画経営課長】 初めに、池山委員から資料の配付がございましたので、池山委員からご紹介いただければと思います。よろしくお願いいたします。

【池山委員】 恐れ入ります、お手元に、「しぶやおすすめの本50」というパンフレットを配らせていただきました。これは渋谷区が平成19年度から取り組んでおります、幼児、児童・生徒へ読書を推進しようという事業のパンフレットでございます。

平成17年・18年度に、PISA世界一になったフィンランドに教員を研修で派遣をいたしました結果、フィンランドの読解力の高さは読書力にあると。非常に豊富な読書であるというようなことを探ってまいりまして、それを受けまして、子供たちに多くの本を読ませたいということで、こんな事業を毎年行っております。

これは23年度、2011年度分でございますが、「おすすめの本50」というのは、週に1回、1冊読んでほしいと。年間50冊読んでほしいという思いを込めて、図書館専門員、学校の教職員が推薦をした本をこのように掲載し、年に1回、読書コンクールを開いて、子供たちに参加を促しているところでございます。

この年度は、ちょうど2,700ぐらいの子供の応募がありました。今年度は1.5倍、4,000を超す応募がございました。今年度、文部科学大臣賞をいただきまして、ますます励みとして頑張っていきたいなと思っておりますので、ご紹介を兼ねてパンフレットを置かせていただきました。よろしくお願いいたします。

【倉富企画経営課長】 池山委員、ありがとうございました。

引き続きまして、本日の流れにつきましてご説明させていただきます。

まず初めに、事前説明といたしまして、都立多摩図書館の移転につきまして、私からご説明させていただくと、その後、多摩図書館長の小澤から、多摩図書館の事業について説明をさせていただきます。その後、多摩図書館を見学していただく流れになってございます。

また、見学後、11時半ごろになりますけれども、休憩時間を取りたいと思っておりますので、よろしくお願いいたしますと思います。

なお、質問につきましては、見学の後に一括してお時間をとりたいと思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。

それでは、恐縮でございますが、お手元の参考資料の1をごらんください。A3の資料でございます。

こちらは「都立多摩図書館の施設整備の概要」というタイトルでございますが、今年の1月に報道発表された資料をおつけさせていただいているものでございます。こちらから概略につきましてご説明させていただきます。

まず、都立多摩図書館につきましては、平成28年3月に移転をする計画となっております。移転の背景につきましては、資料の左側の中ほどの「問題」というところをごらんいただければと思います。

概略をご説明しますと、それぞれの見出しに記載がございますとおり、施設の老朽化、収蔵庫のひっ迫、開架閲覧スペースの不足などから、移転の方針が今回示されたというところでございます。

移転候補につきましては、右側をごらんいただければと存じます。JR西国分寺駅の近くの都有地に移転ということで、具体的には、ご存じの方もいらっしゃるかもしれませんが、都立武蔵国分寺公園と公営の高層住宅に隣接したところに非常に広い土地がございますが、そちらのほうに移転をすることになります。現在の場所よりも駅から非常に近い場所に建設されるということでございます。

また、移転に当たりましては、その次の「移転改築によるサービス向上」と記載してございますが、開架閲覧スペースの拡大をしていくということで、ディスプレイを工夫していくということ。それから、利用対象者の目的に応じた、児童・青少年向け専用スペースの確保ということで、児童書をただ単にそろえるということだけではなくて、児童が利用する場合もあれば親子で利用する場合もある、また教員など大人が利用する場合と、さまざまなケースが想定されます。そういった方々が、それぞれ快適に利用できるように工夫をしていくということでございます。

また、3になりますが、今回、講演会・セミナー等を開催する専用セミナールームの設置ということで、講演会、セミナー等を開催するようなものを設置をしていくということでございます。

また、現在、東京マガジンバンクにおけるサービス、児童・青少年向け事業、学校支援に関する諸事業につきましては、継続し、さらに充実をさせていくということでございます。

す。

また、その他といたしまして、中・長期的に都立図書館に必要な収蔵能力を備えた収蔵庫を設置ということでございます。現在、多摩図書館、中央図書館ともに非常に収蔵庫がひっ迫している状況でございます。今回、多摩図書館の施設整備に当たりましては、都立図書館全体の収蔵を行っていくため、収蔵庫を設置していくことが1つの柱になっております。

また、同じ建物内にある多摩社会教育会館におきまして、現在、研修室などの貸し出しを行っていますが、その一部について引き継ぐということで、施設規模の中で対応を行っていくということでございます。

最後にスケジュールにつきましては、23年度が基本設計でございます。現在、プロポーザル方式といたしまして、企業から提案をいただく方式で手続を行っているところでございます。その後実施設計に移りまして、最終的には28年3月に開館をする予定になってございます。

それでは、引き続き多摩図書館長の小澤から説明をお願いします。

**【小澤多摩図書館長】** 都立多摩図書館長の小澤です。よろしくお願いいたします。

それでは説明をさせていただきます。まず資料3のカラー刷りのA3の用紙をごらんいただきたいと思っております。「都立多摩図書館の事業概要について」というものでございます。

まず経緯ですが、多摩地域には昭和62年までは八王子・立川・青梅に都立図書館がありました。市町村館、特に各中央図書館の充実に伴いまして、この多摩図書館1館に集約をして、都立中央図書館と地域分担してきたところです。

今回の一連の改革及び都立図書館改革の具体的方策によりまして、都立図書館総体の規模を考慮して、地域分担から機能分担を図り、多摩図書館では雑誌の専門図書館として「東京マガジンバンク」を開設しまして、あわせて従来からの児童・青少年サービス事業との2本の柱を中心とした機能を受け持ち、それ以外は中央図書館が分担するというところで、都立の一体的経営と都立間の相互の協力をもって運営してきているところでございます。

1の「東京マガジンバンク」(2)の特徴をごらんください。

雑誌の集中的サービスを行う公立図書館としては全国初の、雑誌の専門図書館ということになります。それぞれ丸印で示しておりますが、1万6,000タイトルの雑誌を所有しております。これは雑誌専門の大宅文庫の1万タイトルと比較しても多いことがわかります。さらに、創刊号のみを集めました創刊号コレクションとしまして4,800タイトル

を所蔵しており、公立図書館としては全国最大の規模であります。

後ほど書庫を見学していただきますが、一般雑誌、いわゆる週刊誌から学術雑誌まで幅広く収集し、雑誌の魅力の発信、提供をしているところでございます。

一方、雑誌のほとんどが地下の書庫に配架されておりまして、スペースの関係上、閲覧室にはわずか600から700タイトルのみの開架となっております。しかし、バックナンバーを何年分もまとめて大量閲覧できるサービスや、ほかでは手に入らない日本各地の情報誌も所有しておりまして、開架数が少ない分、ほかの図書館では得られない特色もアピールしています。

このことを既にご存じの利用者は、1日に大量に出納されご利用なさっていらっしゃると思います。また、オンラインデータベースなどの検索機能の提供につきましては、中央図書館と同様のサービスを行っております。

このほか、(3)にありますように、バックヤードツアーなども実施しておりまして、非来館者には郵送複写サービスを、区市町村立には雑誌の協力貸出等のサービスを提供しておりますのも中央図書館と同様でございます。

もう1つの柱としまして、2の「児童・青少年資料サービス」についてですが、東京都の児童・青少年サービスに関するセンター的役割を持ちまして、都立として旧日比谷図書館以来の蓄積から、全国でもトップクラスの18万冊以上の蔵書をもとに、平成21年度より「第二次東京都子供読書活動推進計画」を展開してきているところです。

(2)の特徴としましては、明治から現代までの児童書、研究書、海外資料などを網羅的に所蔵してきております。また、閲覧室の青少年エリアと児童エリアが離れているために、それぞれのコーナーを利用しやすいように工夫をしたり、貴重なコレクションの展示やおはなし会なども展開してきております。

(3)の下の枠の中に記載しておりますが、司書のスキルアップに即したサービスを試行しながら、その事例を都全域の公立図書館に還元するなど、東京都の児童・青少年サービスをリードし、支える役割を持って、学校に対する支援や連携事業も進めているところです。特別支援学校への訪問を含めまして、読書活動支援や啓発資料の作成、配布など、対象別にきめ細かな支援を心がけ、展開してきているところは、今まで協議会の場でも報告してきているところです。

また、区市町村立図書館への支援としまして、当館が開催する児童・青少年担当職員対象の研修には、都内各自治体から毎回100名を超える参加者がありまして、取り組みの

事例紹介などに関心が集まっております。

このほか、ホームページの充実を心がけ、学校をはじめ各対象者への情報提供を行っているところです。

3、そのほかのサービスについてですが、16ミリ映画フィルムを旧日比谷図書館から9,400巻移管しまして、登録団体への貸し出しを行っており、毎月定例映画会なども開催しております。

また、山本有三氏のご遺族から寄贈されました、1万3,000冊以上の貴重な資料を保有する山本有三文庫がございます。

そのほか、視覚等に障害のある方に対面朗読や点字資料、デイジーの作成貸し出しなどのサービスを行っているところは中央図書館と同様でございます。

ここまでは多摩図書館の特徴としてお話ししてきましたが、リニューアル以降、課題として取り組んでまいりましたのは、多摩図書館の認知度を上げることでございました。10年以上前は、利用するに当たりまして年齢制限などがあったためか、都立図書館がこの場所にあることを知らない方が大変多く、図書館の資料やサービスが活用されないで、利用者も固定化されていたという現状がありました。

そこで、多摩図書館を知っていただこうと、講演会や企画展示を通して、豊富な資料と司書の知識もあわせてPRを図ってきたところです。

ここで、大変申しわけないのですが、お手元の資料で、ホチキスどめをしました「写真で見る多摩図書館の事業」という資料をごらんいただきたいと思います。

1枚ページをめくっていただきまして最初のページですが、これはことしの6月に開催をしました、天野祐吉さんの講演会の様子です。

毎回、講演会では講師のお話に関連する雑誌を展示しまして、講演会後も図書館の利用に結びつくような工夫をしながら企画をしております。

この会につきましては、東京都の言葉の再生プロジェクトの中のビブリオバトルに参加した首都大学東京の学生さんを招きまして、天野さんの講演の後、お二人で対談をしていただきました。天野さんの著作「広告みたいな話」を題材に決勝戦に進んだ学生さんを起用したことから、首都大学東京ともつながりができた一例であるということでご紹介します。

次のページをおめくりください。これは昨年5月に、リニューアル後1周年記念としまして、雑誌の大宅文庫との連携から、大宅映子さんに講演をお願いしたものでございます。

この講演には雑誌社の方の参加がありました。

また1枚おめくりください。これは16ミリフィルムを活用しました、ホールでの映画会です。「キネマ旬報」などたくさん雑誌を持っておりますので、その雑誌2,000冊以上をホワイエに展示をいたしまして、映画フェスティバルを開催しました。

また次のページに移っていただきます。これは昨年の夏休みに開催をしました子供読書フォーラムで、「宇宙」をテーマにJAXAの方の講演とワークショップを企画したものです。400名の募集に対しまして1,300名の応募を得ました。

2枚目にもそのときの様子を掲載してございます。このフォーラムの後は、小学生の来館が増加したところでございます。

そのほか、講演会やおはなし会、バックヤードツアーなど、雑誌の魅力の発信と子供読書活動を推進しつつ、都民のニーズに合うような企画を考えてアピールしてきたものを添付してございますので、後ほどゆっくりごらんいただけたら幸いです。

それでは、お手数ですがまたA3の「概要について」にお戻りいただきたいと思います。

4の概況の部分をごらんいただきたいと思います。

(2)の来館者が、リニューアル前の20年度と比較しますと、22年度では1日平均100人増と、数字が上昇してきております。今お話ししました講演会や企画展示を重ねながら、少しずつ認知されてきつつあるのかと感じております。

ただし、(3)の建物概要にありますように、床面積が中央図書館の5分の1のスペースしかありませんで、座席数も、小さな子供のいすを含めても150席程度しかないために、ことしの夏は1日500名を超える日があったのですが、立ち見をしていただくような状況でございました。

また、(4)に、あえて交通と記載してございますが、西国立駅、立川駅からのアクセスが悪いので、講演会等に参加された方からは、アンケート等でも、もっと駅が近ければというご意見を毎回多数いただきます。このたび、西国分寺駅への移転が決まりましたので、この部分の改善は期待されるどころかなと思っております。

以上、雑駁ではございましたが、概要説明とさせていただきます。この場での説明不足は、この後の施設を見学していただく中で、また補いたいと存じます。説明は以上でございます。ありがとうございました。

【中島議長】 それでは引き続きまして視察にまいります。視察について、よろしいですか。

【倉富企画経営課長】 これから視察に移らせていただきたいと存じます。貴重品につきましてはお持ちいただきまして、そのほかのものについては置いていただいて結構でございますので、よろしくお願いいたしますと思います。

では、職員がご案内させていただきますので、よろしくお願いいたします。

( 館内視察 )

【中島議長】 館長以下、ご説明ありがとうございました。

ごらんになりまして、ご質問がもしあれば、ここで一括してお受けしたいと思います。どうぞ。

【宮林委員】 では1つだけよろしいですか。大変ありがとうございました。私は機能分担をして、多摩のこちらの図書館を雑誌とかそういうものを中心にするんだという話を聞いたときに、じゃあほかのものは中央図書館のほうに行っちゃうのかということで、どうなのかなと思いましたけれども、今見せていただきながら、ちょっと認識不足だったので、大変いろいろなものに耐えられるなと思いました。

それから、参考図書エリア、ちょっと遠くのほうからしか見なかったのですが、その部分は本来のものじゃないのだろうと思うのですが、新しく国分寺のほうに行ったときに、やはり参考図書エリアは、多少必要なものは継ぎ足していただいて、その部分も少し残っているというか、ちゃんと主張できるようなコーナーを置いておいていただいたほうが――まあ、中央図書館のほうに、行けばいいんだけど、このコーナーの充実も考えておいたほうがよろしいのかなと思います。聞くところによれば、ほとんど補充していないわけですね。たくさん補充する必要ないわけだけど。新しく図書館ができたときには、その部分も多少補充しながら、主張するコーナーもあってもいいのかなと思いました。

【中島議長】 ほかにご意見のある方、いらっしゃいますか。

【千野委員】 よろしいですか。実は私、ここ、裏側を見せてもらうのは2回目なのですが、2回とも、見ていてはらはらどきどきしてしまうのは16ミリフィルムです。きょうもお話が出ていましたけれどもどんどん劣化していくと。これはもう、これからはデジタルにしていく、それ以外の方法というのはあまり考えられないと思うのですが、今も立ち話程度で聞きますと、お金をどうするみたいなどころになっているようです。外からスポンサーを募るなり何なりという形で何かできるのではないかとと思うのですが、その辺の考え方について、改めて確認の意味で伺えれば。現状、どういうふうにお考えになっているのかということをお聞かせいただければと思いますが、いかがでしょうか。

【倉富企画経営課長】 現状におきましては、まず保存に努めるということで、なるべく劣化しないような形で、温度管理等行いながら保存に努めていくというのが今の考え方になります。

ただ、今後の話として、確かに劣化が進んでいくというところがありますので、今後どうすべきかというところについては、デジタル化の関係など、著作権の関係など複雑な課題等もございますので、そういったことを踏まえながら検討していく必要があると考えております。

【千野委員】 ありがとうございます。

【宮林委員】 もう1つ、今の16ミリ関係でよろしいですか。私どもには秋川流域視聴覚協議会という協議会がありまして、秋視協というところで、やはり16ミリのフィルムをいっぱい持っているんですよ。

ところが、もうだれも借りに来てくれない。そしてただただ置いておくだけでね。で、今のようなデータ化の問題が出ています。

ここは、借りに来る人はいるんですか。16ミリのフィルムを。

【小澤多摩図書館長】 はい。登録をさせていただいております、登録団体にお貸ししています。年間1,000弱ぐらい貸し出しをしております。

【宮林委員】 16ミリで見せるものとテレビの画面で見せるものとは全く迫力が違うわけで、16ミリはとてもいいんですよ。あきる野なんかはそれを大事にしてきたんです。だけど、16ミリの映写機を操作できる先生が、みんな退職していなくなっちゃいました。かと言って若い人はやらないですからね。資格を取れるための研修もしているのですが、なかなかそういう先生がいなくてね。実際にもう映写できなくなってしまう状況です。

そんな中で、なかなか秋視協そのもののフィルムが使ってもらえなくなったのですが、こちらでそういうものを、「これ、借りに来る人がいるのかな」と思ったりしています。年間1,000件からあるんですか。それは大変すばらしいことですね。

【小澤多摩図書館長】 はい。島へも貸し出しをしておりますので。

【宮林委員】 大事にしたいですね、これは。ほんとうに。

【中島議長】 ほかにございませんか。はい、どうぞ。

【鈴木委員】 16ミリフィルムで保存の話が出ましたが、メインの資料の雑誌コレクションのほう、こちらにもコミック等がありますので、紙質があまりよくないものもあるかと思えます。非常に貴重で、特色のあるコレクションですので、ぜひ十分な対策を考えて

いただきたいと思います。保存はどちらかというと後回しにされがちになりますが。

それから、現時点で何か対策、例えば媒体変換とか、お考えになっていますでしょうか。

【倉富企画経営課長】 雑誌は、特に著作権の関係、千野委員が一番お詳しいのかもしれませんが、非常に複雑なので、こちら側で許諾を得てデジタル化を行うというのは難しいのではないかなと思っています。

また、雑誌については、こわれやすいところもあるため、そういったことも配慮しながら、保存しているところです。

特に、雑誌のバックナンバーは市町村の図書館の場合ですと一定年数たつと除籍をしてしまうことが多いものですから、そういった面では、雑誌のバックナンバーを長い期間手に取って見ていただけるように保存することが、都立図書館の役割として大事だと思っています。

【坂本資料管理課長】 よろしいでしょうか。資料管理課長の坂本と申しますが、都立図書館の資料の保存に関しては、昨年度、資料保存ガイドラインという都立図書館の資料保存の具体的な指針を策定しまして、その中でも幾つかの具体的対策を示しているのですが、雑誌については、今後考えられる対策として、脱酸処理——脱酸処理にも幾つか方法があるのですが、アメリカからブックキーパー法という脱酸処理の方法が日本にも導入され、その処理法によると比較的紙の色が茶色くならず紙の寿命が延びる効果があります。費用対効果の問題もございしますが、そちらの脱酸処理について真剣に検討しなければいけないかと考えております。

【中島議長】 ほかにございませんか。はい、どうぞ。

【齋藤委員】 きょうは、図書との戦いの場を拝見し、頭が下がりました。収集、分類、整理、保管、そしておそらく検索のためのいろいろなシステムの構築ということも、膨大な労力をかけてやっておられるのだと思うんです。ほんとうに、こういったことが図書館サービスの根底としてあるのだということを改めて認識させていただきました。

その中でも、青少年コーナーには、本を紹介する熱意を非常に感じました。一冊一冊、意思を持って選んだものが、十進分類法のあれで並べられているわけですが、これまで私は、図書館が十進分類法で並べられている様子を見ると、何か無機的な感じもしていました、ほかの図書館では。ところが、青少年コーナーに関しては、様子がまったく違って、一冊一冊が生きているような気がしました。そして、そのようによく吟味された図書選択とその並べ方を拝見して、大変驚きました。ああいったことが、若い人たちが知識

に関して目覚めていくこと、また本を知るといふことの入り口になるのだろうなと思いましたが。

その後ずっとまた館内を見せていただいて、一番きょう感動したのは、「これならできる！自由研究 111枚のアイデアカード集」なのですが、あれは単なる本の紹介というところを超えて、本の使い方というか、そういったところまで踏み込んで解説しておられるし、単に1冊の本の使い方ということではなくて、関連する数冊の本がひもづけられている。ああいった努力というのはほんとうにすばらしいなと思いました。

そこで1つ質問させていただきたいのですが、図書館機能を向上させたり、大変な労力をかけてサービス体制を運営されている中で、ああいったカードをつくるというような、コンテンツの企画・製作といった作業は、どういう勤務形態の中で、どのように時間のバランスをとりながらしておられるのでしょうか。

【小澤多摩図書館長】 勤務形態は、同じでございます、都の職員は8時間勤務で、ローテーションがございますので、多摩図書館の場合は早番・遅番で役割が決まっています。その全員がなかなか揃いません。アイデアカードをつくりましたのは児童・青少年サービス係で4名の職員で作成したのですが、毎日一斉に会う時間というものがないものですから、それぞれ宿題としていろいろな要素を自分の中で考えてきて、全員がそろったときにアイデアを持ち寄って議論をして、それでほんとうに容赦なく、視点に合わないものはすべて却下というような形で、何段階も作業を経て創り上げられたわけです。

企画展示や講演会なども、このような形で組み立ててきております。

【齋藤委員】 ありがとうございます。

【中島議長】 ほかにございませんか。はい、どうぞ。

【田中委員】 雑誌はやはりいろいろ扱うのが難しい資料で、大変だと思うのですが、雑誌を中心にしてサービスが成立するというのは、ほんとうに御苦労が絶えないのかなと思います。

開架できる資料がわずかだということからすると、あれだけのコレクションを広く活用していただくためには、索引サービスとかコンテンツのサービスとか、そういったものを組み合わせて、雑誌のタイトルだけではわからない、検索のキーとなるようなものを何らかの形で目録に加えて出さないと、充実した活用というのが、閉架の場合には難しいかと思うのですが、その辺は何か展望といったものがあるのでしょうか。

【倉富企画経営課長】 実は、今回、図書館協議会のテーマの中で、質の高いサービス

となるよう中央図書館と多摩図書館の、重点的に取り組む内容について検討していきましようということで、ご提案させていただいたところですが、その中でマガジンバンクを1つ挙げさせていただいた経緯がございます。

田中委員からご指摘があったように、これからマガジンバンクのサービスをどうやって提供していくと、より都民の方に広く使っていただけるのか、そういったところが、これからご議論いただきたいところと思っております。

現在は、先ほど館長の小澤や、視察の際にいろいろお話があったかと思うのですが、まずはマガジンバンクの認知度を高めるとともに講演会などと合わせて展示を行って、雑誌の魅力を知っていただくというところに力を置いて進めている状況でございます。

**【中島議長】** はい、どうぞ。

**【長島委員】** 関連して、広報についてなのですが、実は私は日野市で育ちまして、今、多摩市に住んでいるのですが、実は全然存じ上げなかった。きょうまで。私の周りでも、こういう話題を聞いたことがない。

で、見せていただいて、ほんとうにすごいのに、もったいないなと思いました。私もジェトロの図書館も、もっともっと認知度を上げよう上げようというのは常に言われていて、ほんとうに広報、どうやったらいいのかというのはいつも悩んでいるところなのですが、今、実際にどんな広報をされていて、これから移転を機にさらに広報のチャンスと思うのですが、何か具体的な計画などがあれば、私も参考にお聞かせいただければと思うのですが。

**【倉富企画経営課長】** 移転後についてはこれからの話になるのですが、現在、多摩図書館で様々な広報を行っております。

**【小澤多摩図書館長】** マガジンバンクのほうで言いますと、やはりマガジンバンクの雑誌を利用してくださる方対象別にいろいろ広報していくのが一番有効的だろうと。

今までは一般の方、どなたにでも知っていただくような形で、近隣に割と広報はしてきたのですが、やはり雑誌社とか大学生、あるいは高校生、そのあたりにこれから広報していきたいということで、配付資料の中の東京マガジンバンクの資料をご覧ください。この資料なのですが、これはできたばかりなのですが、多摩図書館にあるこの1万6,000タイトルのもので、どういったものがあるのかというのはなかなか検索だけではわからない。そして、やはりぱっと見た瞬間に「あ、こんなものもあるんだ」というところを広くPRしていきたいということから、この資料を作成しました。

それで、多摩図書館の場合は、特に女性誌と鉄道雑誌に重点を入れて収集をしている部分もありますが、そのほかの日本各地の地域情報誌等も知っていただきたいというようなところからこれを作成しました。今後、この資料を持って、雑誌社とか大学に広報に行こうかと考えております。

先ほども少しご説明しましたが、首都大学東京の学生さんに依頼して、学生を少し講演会にも引き込みたいというようなことから、天野さんの講演会の企画を立てたのも理由の1つでございます。あとは、16ミリを使って、中央大学等でも映画会のサークルとかゼミがあるものですから、そういうところと事業連携して、多摩図書館の資料をお貸ししたりすることもしております。

今お話したのがマガジンバンクとしての広報で、児童・青少年サービスのほうは、やはり何とんでも学校支援が柱になりますので、小・中あるいは高校で、しらべ学習としてこちらに来ていただいているいろいろ資料を活用していただくことも1つですし、あるいは特別支援学校にこちらから出向いて行っておはなし会等をする中で、先生方にも当館の資料を使っていただくようなピーアールをしております。

そのほか、細かいことはあるのですが、大筋にはそのようなところで、現在展開をしております。

【長島委員】　　じゃあ、このチラシは今回初めておつくりになって、これからやられると。

【小澤多摩図書館長】　　はい、そうです。9月30日にできたばかりのものです。

【長島委員】　　そうなんですか。ありがとうございます。

これはかなり目を引きますよね、若い人の。

【小澤多摩図書館長】　　ありがとうございます。

【中島議長】　　ほかにございませんか。はい、どうぞ。

【浦部委員】　　今、学校への支援というお話がありまして、私は今、学校に勤務しておりますので、齋藤委員からもお話がありましたが、青少年コーナーが、大変魅力的に映りました。

学校の、高校の図書館でも、それぞれ学校司書、あるいは司書教諭が工夫をしています。いろいろな学校の図書館を訪ねるとそれぞれ魅力的なのですが、やはりこちらの司書の方々の研究の度合いというか、それはもうさらに格段の差があるように思いました。今、この司書教諭研修というのはどんな形で実際になさっているか、また、これからどんな形

で研修をお考えか、お聞かせ願えればと思います。

【小澤多摩図書館長】 はい。では担当の係長から。

【事務局】 司書教諭研修ということでは、年に1回、東京都の教職員研修センターが、小・中・高、特別支援学校の先生方を対象に研修の場を設けておりますので、図書館のほうからは、主に選書ということをテーマに講師として参加して、研修ということで年1回やっております。場所はこちらを使わせていただいて、当館の豊富な資料を見ていただきながら、選書のスキルを持ってもらうような展開をしております。

それはやってはいるのですが、人数に限りもありますので、各自治体さんごととか教育委員会さんごとに研修等を頼まれることもございますので、それはできる範囲で、なるべく研修はやるようにしておりますので、またそれは入って来次第やるようなことがございます。

【浦部委員】 学校司書で、グループで自分たちで研修会などもやっているようなのですが、そういうときに、お願いしたら講師の方を派遣していただくとか、そういうことはできますか。

【事務局】 市区町村の図書館さんの役割というのもありますので、小学校とか中学校さんの場合は、そのあたりの市町村の図書館さんとの関係も考慮しながら、お受けできるものはお受けしております。

【浦部委員】 ありがとうございます。

【中島議長】 ほかにございませんか。

ありがとうございます。それではそろそろ時間が参ったようでございます。

今回、非常に熱心に視察をさせていただきました。次回の協議会では、今後のテーマそのものを決めるということでございますので、取り組みを行ってまいりたいと思っております。

では、これで私の役割を終わりましたので、司会を事務局にお返しいたします。

【倉富企画経営課長】 本日、中島議長をはじめ委員の皆様、大変ありがとうございました。

一点ご報告がございます。チラシをご用意させていただいておりますが、江戸東京デジタルミュージアムにつきまして、ご報告を少しさせていただきます。

【工藤情報サービス課長】 情報サービス課長の工藤でございます。私からご説明させていただきます。

第24期の協議会におきまして、電子図書館化の一環といたしまして、既に何度かご紹介をさせていただいているものがございますが、中央図書館の特別文庫室で所蔵しております貴重資料をデジタル化いたしまして、ホームページ上で閲覧できるウェブサイトとして、正式に「江戸・東京デジタルミュージアム」という名称で、本日公開いたします。

同時にプレス発表も本日行いました。資料の中ほどでございますURLを入力していただければごらんになることもできますが、本日、1階の多摩図書館のほうでデモンストレーションの操作を行いたいと存じますので、もしお時間があれば1階までお運びいただくようお願いいたします。

また、今後の展開といたしましては、今回は、「大江戸エンターテインメント」と「大江戸スタイル」という2つのテーマについてまずご紹介いたしますが、全部で8テーマございます。徐々にテーマを拡大していくことによりまして、リピーターを増やしていきたいと考えております。

また、英語のサイトもございますので、海外にも発信をして、より広く江戸・東京の歴史や文化に気軽に親しんでいただくという試みでございます。

ちなみに裏面に実際のサイトのページの絵がございますので、あわせてごらんください。

私のほうからは以上です。

**【倉富企画経営課長】** 最後に、定例会の次回の日程でございます。12月を予定してございます。後日また日程調整のご案内をお送りさせていただきますので、よろしく願いしたいと思います。

それでは、何か特にご質問等よろしいでしょうか。

それでは、以上をもちまして、本日の協議会を終了させていただきます。大変ありがとうございました。

午後0時05分閉会